

## ⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—19360

⑪ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 41 K 1/10

識別記号

庁内整理番号  
6951—2C

⑬ 公開 昭和59年(1984)2月6日

審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 日付印

号サンビー株式会社内

⑮ 実 願 昭57—116996

⑯ 出 願 昭57(1982)7月30日

⑰ 考 案 者 福武健治

大阪市天王寺区石ヶ辻町13番10

⑱ 出 願 人 サンビー株式会社

大阪市天王寺区石ヶ辻町13番10  
号

⑲ 代 理 人 弁理士 折寄武士

## ⑥ 実用新案登録請求の範囲

筒壁2の上部の前後に開口部3・3を有し、底壁4の中央に窓口5が透設され、筒壁2の下端外周から環状鋸6が突出形成された筒枠1と、

筒枠1の環状鋸6内において前記底壁4の下面に下端印字面9aが環状鋸6の突出端面6aよりも僅かに突出する状態で貼着固定され、前記窓口5にはほぼ合致する抜き孔10を有する印字体9と、

天板13および左右の側板14・14を有する門形枠15の内側上部に支軸16を左右の側板14・14間にわたって架設し、該支軸16にいくつかの回転ダイヤル17を左右並列状態で回転自在に支持し、門形枠15の下部にブリッジ19を左右の側板14・14間にわたって架設し、各回転ダイヤル17とブリッジ19との間に印字ベルト20をそれぞれ巻掛けてなる印字機構12と、

筒枠1内において印字機構12を印字ベルト20群の下端の可変印字面20aが前記窓口5に臨むとともに、回転ダイヤル17群が前記開口部3・3を介して外部に臨む姿勢で上下動自在に、しかし上方への移動限界を規制して抜止め状に保持する手段と、

筒枠1の底壁4と印字機構12の門形枠15との間に装着されて印字機構12これ全体を押し上げ付勢するばね部材25と、

筒枠1の上部外周に上方から上下スライド自在に嵌合する筒壁27と、筒壁27と一体に形成されて筒枠1の開口上面を蓋する上壁28とを有する把持筒26と、

把持筒26の筒壁27と筒枠1との間に設けら

れ、筒枠1に対して把持筒26をこれが前記開口部3・3を覆う下方へのスライド限界位置と、該開口部3・3を外部に開放する上方へのスライド限界位置とにおいて保持する係合手段と、

把持筒26の上壁28にねじ止めされ、下端が印字機構12の門形枠15の天板13に接当作用する印字機構12の高さ調整ねじ35と、

内底部にインク吸蔵マット40が敷設され、筒枠1の下部外周に着脱自在に嵌着されるキャップ39と、

からなる日付印。

## 図面の簡単な説明

第1図は従来の代表的な日付印を例示する外観斜視図である。第2図ないし第7図は本考案の一実施例を示しており、第2図は外観斜視図、第3図は縦断正面図、第4図は縦断側面図、第5図は使用時における縦断正面図、第6図は第3図におけるVI—VI線断面図、第7図は第3図におけるVII—VII線断面図である。第8図ないし第10図は本考案の別実施例を示しており、第8図は一部切欠き正面図、第9図は一部切欠き側面図、第10図は第8図におけるX—X線断面図である。

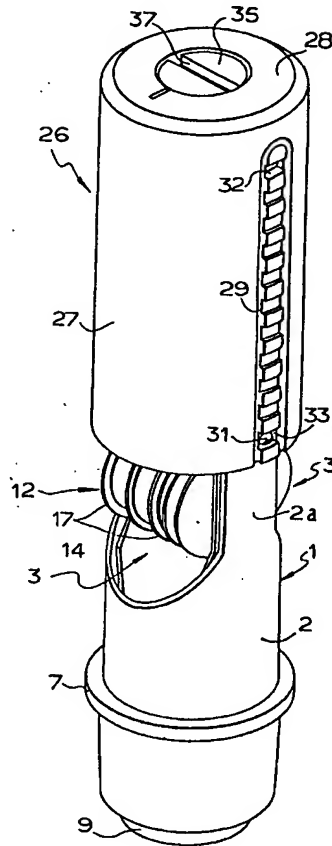
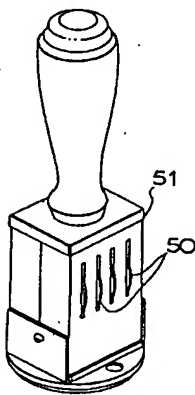
1……筒枠、2……筒枠1の筒壁、2a……筒壁2の支持壁、3……開口部、4……筒枠1の底壁、5……窓口、6……環状鋸、7……周回鋸、9……印字体、9a……印字体9の固定印字面、10……抜き孔、12……印字機構、15……門形枠、13……門形枠15の天板、14……門形枠15の左右の側板、16……支軸、17……回転ダイヤル、19……ブリッジ、20……印字ベ

ルト、20a……印字ベルトの可変印字面、22……スライド溝、23……スライド突起、25……ばね部材、26……把持筒、27……把持筒26の筒壁、28……把持筒26の上壁、30……

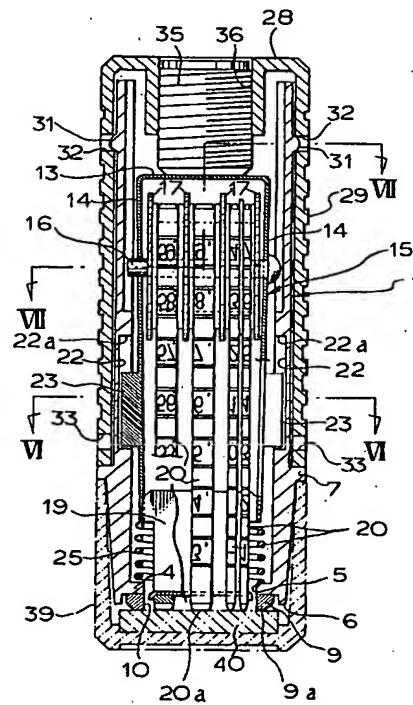
……スライド溝、31……係合突起、32、33……係合あな、35……調整ねじ、36……ねじ孔、39……キャップ、40……インク吸蔵マット。

第2図

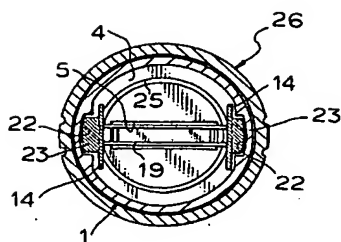
第1図



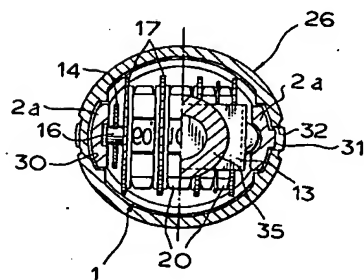
第3図



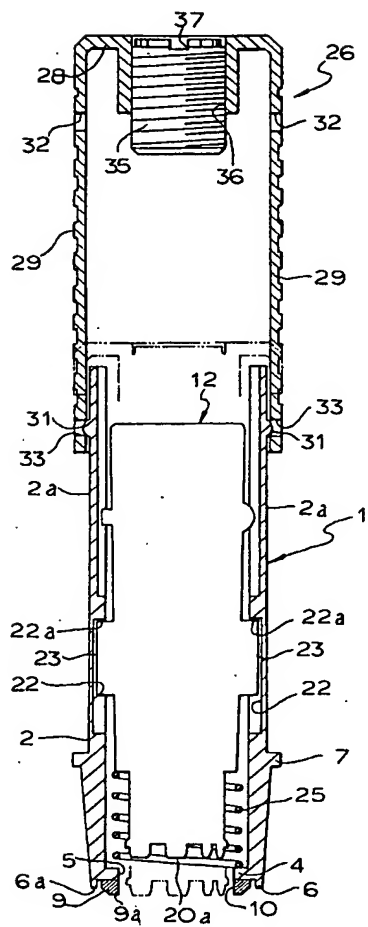
第6図



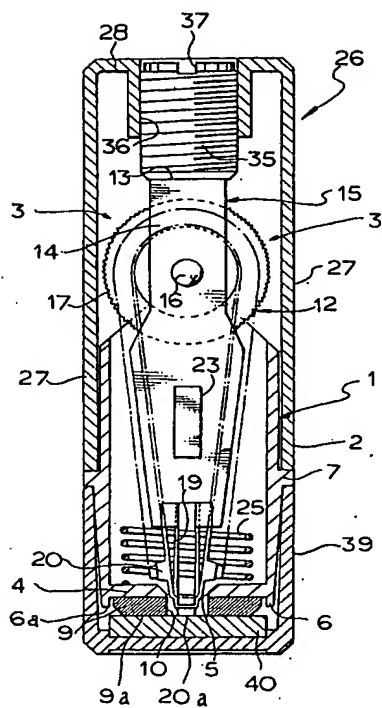
第7図



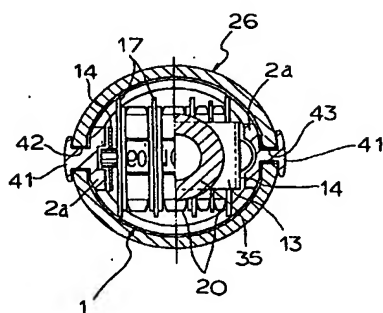
第5図



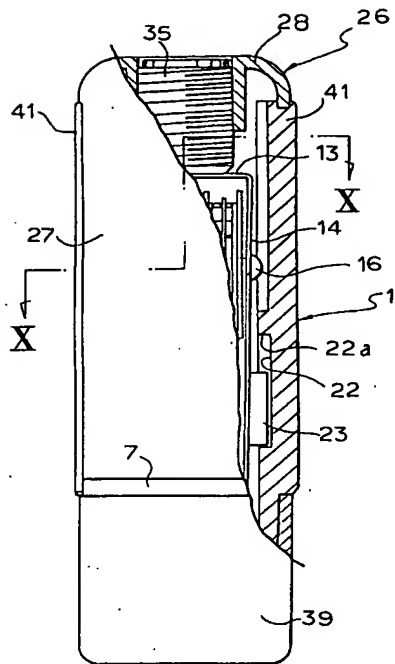
第4図



第10図



第8図



第9図

